



2018年8月9日

各 位

会 社 名 アニコム ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役 小森 伸昭
 (コード：8715 東証一部)
 問合せ先 常務執行役員 亀井 達彦
 (TEL. 03-5348-3911)

(訂正)『通期業績予想および「中期経営計画 2020」の修正に関するお知らせ』の
 一部訂正 (追加) について

2018年8月8日に公表いたしました『通期業績および「中期経営計画 2020」の修正に関するお知らせ』
 について、一部訂正 (追加) がありましたので、お知らせいたします。なお、修正箇所は赤字で表記して
 おります。

記

1. 『修正1 (P10) 3か年 数値計画 (連結)』について

前回公表時 (5.9)

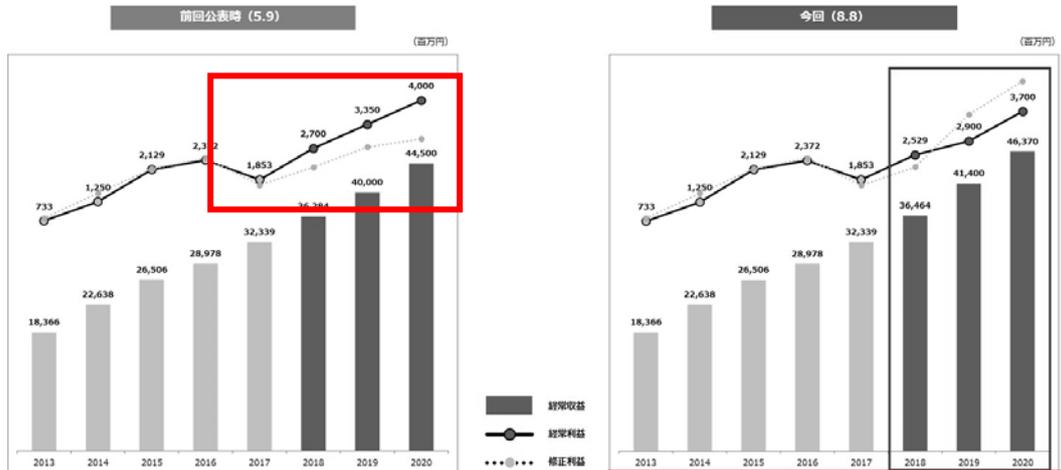
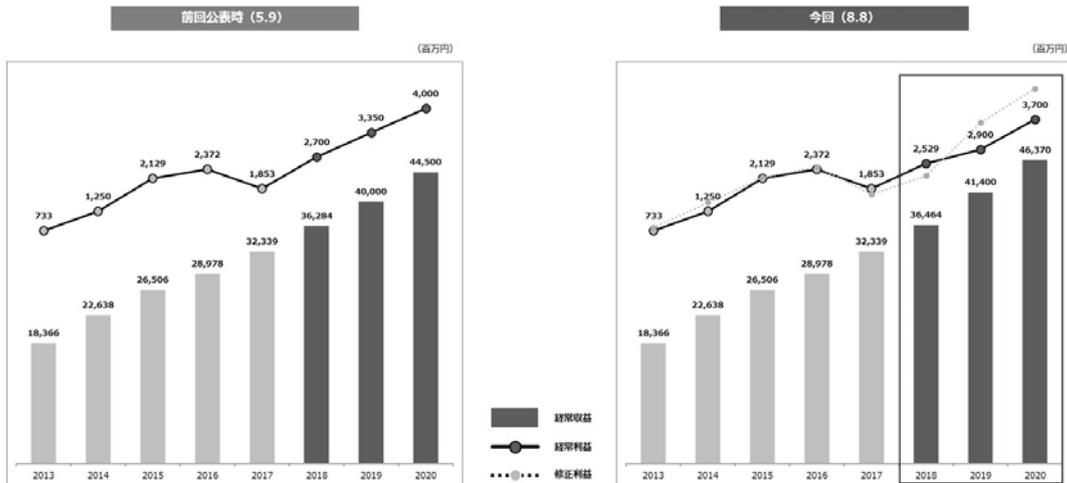
(百万円)

連結	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
経常収益	32,339	36,284	40,000	44,500
保険引受収益	31,290	34,672	38,200	42,000
資産運用収益	420	600	600	700
その他経常収益	628	1,012	1,200	1,800
経常費用	30,486	33,584	36,650	40,500
保険引受費用	21,771	24,226	26,735	29,549
営業費一般管理費	8,479	8,954	9,469	10,301
その他の経常費用等	235	404	445	650
経常利益	1,853	2,700	3,350	4,000
税引前利益	1,839	2,680	3,330	3,980
当期純利益	1,320	1,850	2,300	2,750
連結ROE	10.3%	12.9%	14.0%	14.6%



その他の経常費用等	235	404	445	650
経常利益	1,853	2,700	3,350	4,000
税引前利益	1,839	2,680	3,330	3,980
当期純利益	1,320	1,850	2,300	2,750
連結ROE	10.3%	12.9%	14.0%	14.6%
修正利益	1,702	2,189	2,733	2,952

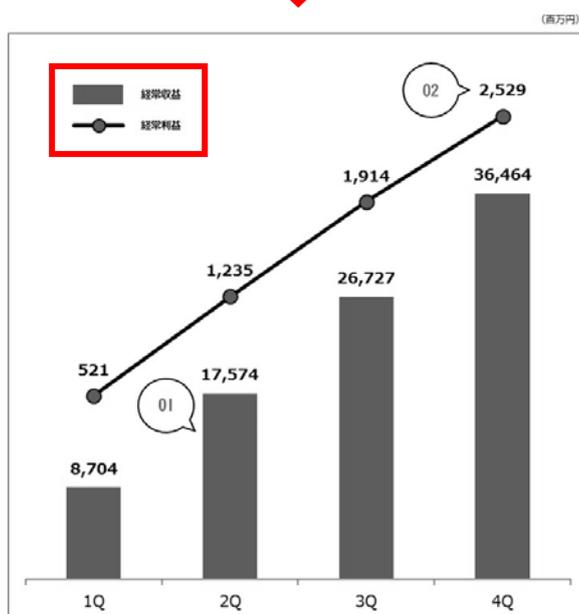
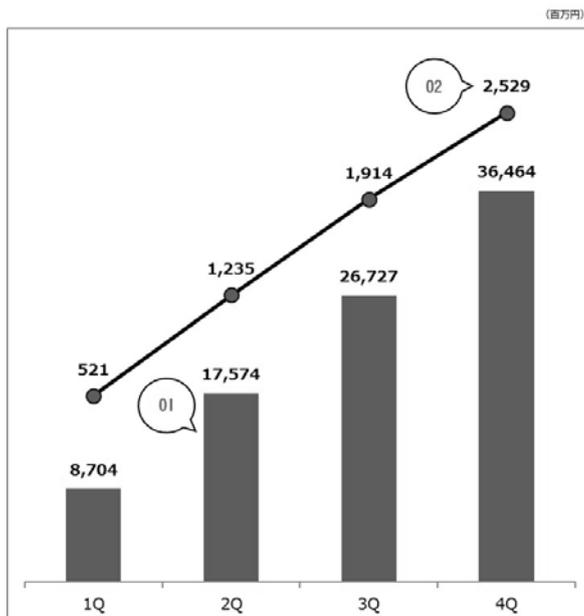
2. 『修正2 (P11) 3か年 数値計画 (連結)』について



【数値計画修正の解説】

保険料率の引き上げに伴い、経常収益は増加し、損害率が低下。一方で、損害率低下に伴い、異常危険準備金の戻入額が減少することを主因に、経常利益が減少（ただし、ペット保険の実質的な損益を示す、修正利益は増加）。

3. 『(6) 単年度 数値計画 (連結)』について



以上

ペット保険 商品改定に伴う業績予想および「中期経営計画 2020」の修正

「中期経営計画 2020」において、ペット保険シェアの更なる拡大に向けて、「次世代の保険商品開発へ（※）」を掲げておりましたが、この度、アニコム損害保険株式会社は、以下の通り、商品改定を行い、保険料改定・新付帯サービスを導入することといたしました（2018年12月から）。

※中期経営計画 2020（P7）より抜粋。「03 次世代の保険商品開発へ」：遺伝子・共生細菌に関する研究成果を用いて、バイオテクノロジーと金融商品を合わせた次世代の保険を開発していく。アニコムにしかできない商品の開発でコアコンピタンスを強化し、ペット保険シェアの更なる拡大を目指す。

商品改定の3つのポイント

01 | **ワイドタイプ（限度なし商品）の保険料を、全面改定**

02 | **スタンダードタイプ（限度あり商品）の高年齢層の保険料を、引き上げ**

03 | **新たな付帯サービス「どうぶつ健活」の導入**

『腸内フローラ測定サービス』

「ペットの腸内フローラ測定」を無料で受けられるサービス開始。アニコムグループにおける、腸内フローラの研究データと、保険金の統計から得られた疾病データを基に、独自指標を作成し、ペットの病気のリスクを判定。

（※ 腸内フローラ測定は病気を診断するものではありません）

『健康診断受診勧奨サービス』

腸内フローラ測定にて、「高リスク」の判定の場合には、指定の動物病院で、無料で健康診断を受診。

本商品改定に伴い、2019年3月期連結業績予想、および「中期経営計画 2020」の数値計画を改定します。

詳細は、次ページ以降

修正1 | (P10) 3か年 数値計画 (連結)

前回公表時 (5.9)

(百万円)

連結	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
経常収益	32,339	36,284	40,000	44,500
保険引受収益	31,290	34,672	38,200	42,000
資産運用収益	420	600	600	700
その他経常収益	628	1,012	1,200	1,800
経常費用	30,486	33,584	36,650	40,500
保険引受費用	21,771	24,226	26,735	29,549
営業費一般管理費	8,479	8,954	9,469	10,301
その他の経常費用等	235	404	445	650
経常利益	1,853	2,700	3,350	4,000
税引前利益	1,839	2,680	3,330	3,980
当期純利益	1,320	1,850	2,300	2,750
連結ROE	10.3%	12.9%	14.0%	14.6%
修正利益	1,702	2,189	2,733	2,952

今回 (8.8)

(百万円)

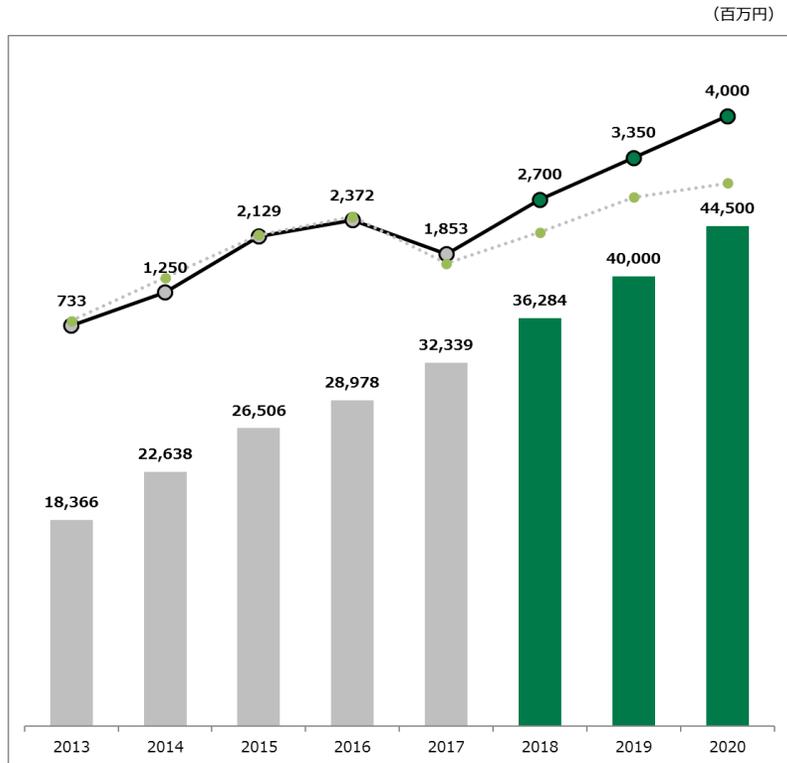
連結	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
経常収益	32,339	36,464	41,400	46,370
保険引受収益	31,290	34,852	39,600	43,870
資産運用収益	420	600	600	700
その他経常収益	628	1,012	1,200	1,800
経常費用	30,486	33,935	38,500	42,670
保険引受費用	21,771	24,486	28,000	30,840
営業費一般管理費	8,479	8,954	9,469	10,300
その他の経常費用等	235	495	1,030	1,530
経常利益	1,853	2,529	2,900	3,700
税引前利益	1,839	2,509	2,880	3,680
当期純利益	1,320	1,731	1,990	2,540
連結ROE	10.3%	12.4%	12.4%	13.9%
修正利益	1,702	2,195	3,615	4,525

※「修正利益」とは

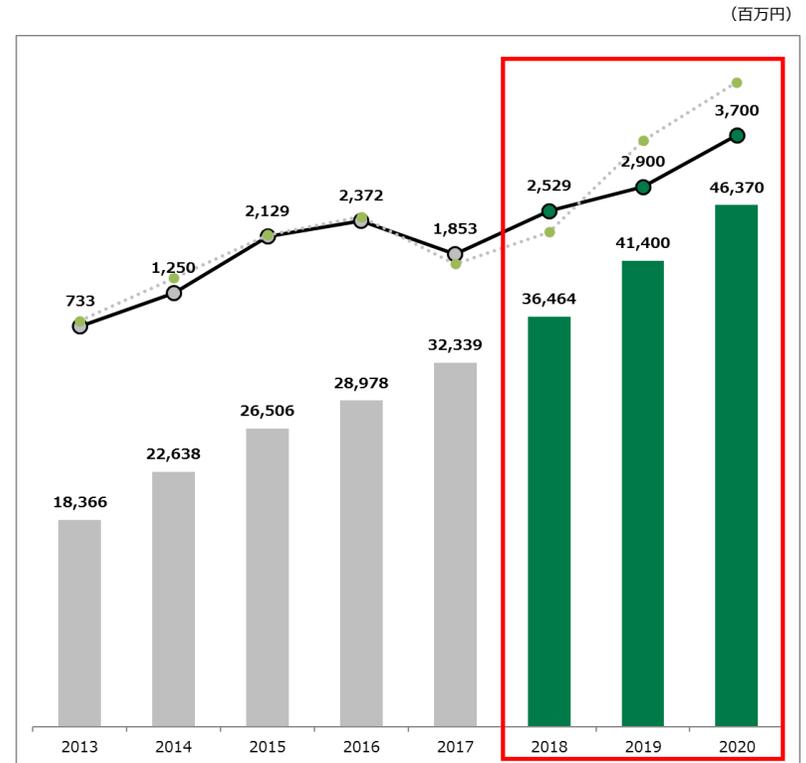
経常利益から、異常危険準備金・資産運用収支・その他経常収支等の影響を除外した利益であり、『[ペット保険事業の実質的な損益](#)』を表す、当社グループ独自の指標。

修正2 | (P11) 3か年 数値計画 (連結)

前回公表時 (5.9)



今回 (8.8)

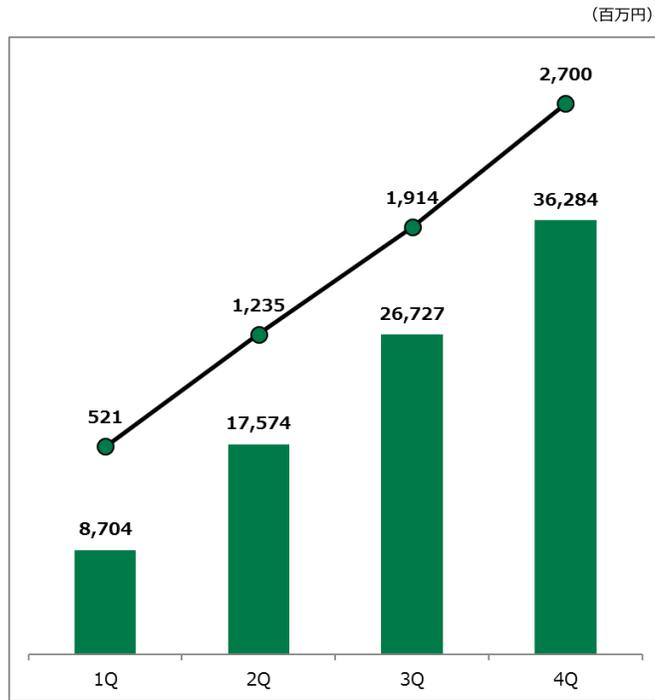


【数値計画修正の解説】

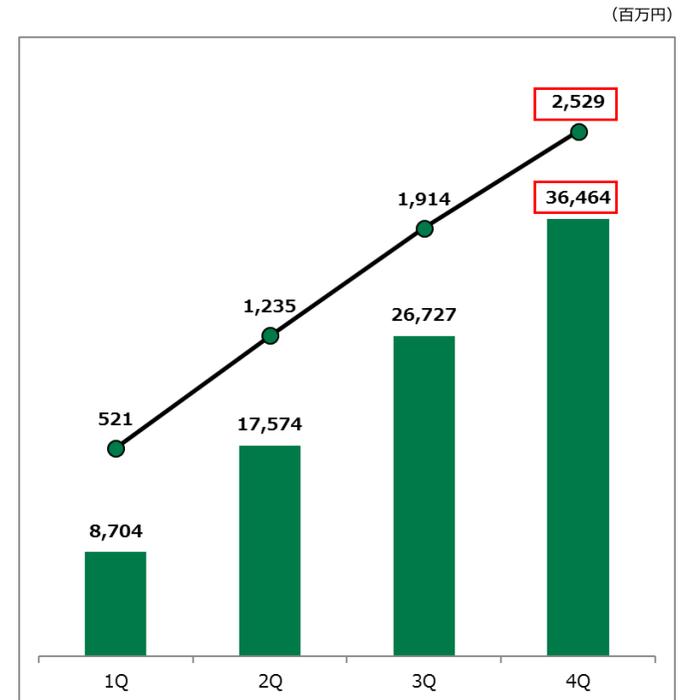
保険料率の引き上げに伴い、経常収益は増加し、損害率が低下。一方で、損害率低下に伴い、異常危険準備金の戻入額が減少することを主因に、経常利益が減少（ただし、ペット保険の実質的な損益を示す、修正利益は増加）。

修正3 | (P12) 単年度 数値計画 (連結)

前回公表時 (5.9)



今回 (8.8)

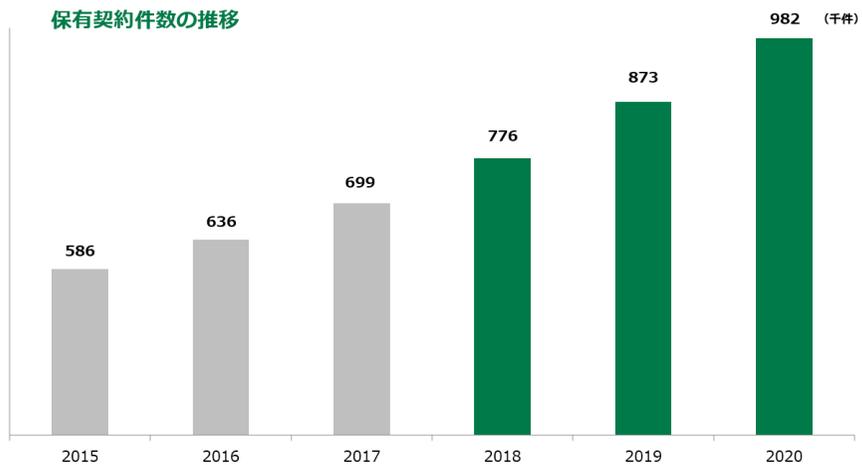


■ 経常収益
● 経常利益

修正4 | (P21) ペット保険主要数値計画 (3か年)

前回公表時 (5.9)

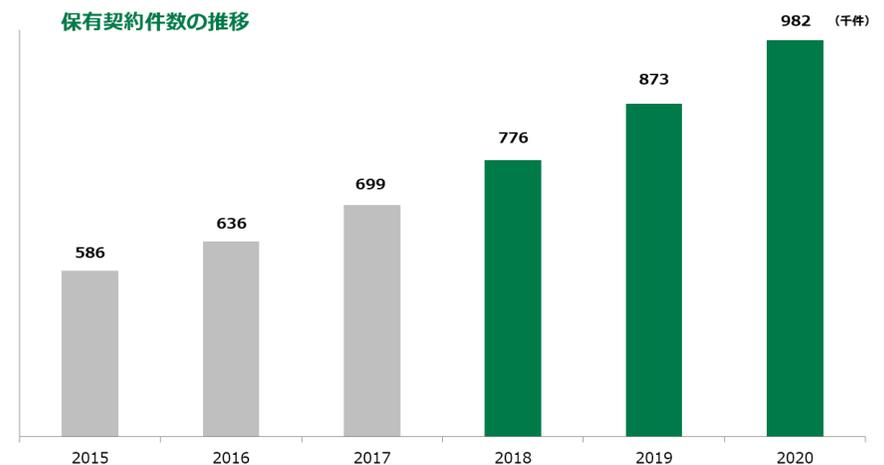
保有契約件数の推移



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
コンバインド・レシオ	91.2%	91.0%	94.4%	93.5%	92.5%	92.4%
損害率	60.1%	58.9%	59.2%	59.0%	58.9%	58.8%
事業費率	31.1%	32.1%	35.2%	34.5%	33.6%	33.5%

今回 (8.8)

保有契約件数の推移



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
コンバインド・レシオ	91.2%	91.0%	94.4%	93.9%	92.4%	91.7%
損害率	60.1%	58.9%	59.2%	59.0%	57.4%	56.4%
事業費率	31.1%	32.1%	35.2%	34.8%	35.0%	35.3%

修正5 | (P22) 主要経営パラメーター

前回公表時 (5.9)

	17年3月期末	18年3月期末	対前期末	19年3月期末 (5月9日予想)
① E/I 損害率	58.9 %	59.2 %	0.3 Pt 上昇	59.0 %
② 既経過保険料ベース事業費率	32.1 %	35.2 %	3.1 Pt 上昇	34.5 %
③ コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)	91.0 %	94.4 %	3.4 Pt 上昇	93.5 %
④ 単体ソルベンシー・マージン比率	295.6 %	305.6 %	10.0 pt	315.0 %前後

今回 (8.8)

	17年3月期末	18年3月期末	対前期末	19年3月期末 (8月8日予想)
① E/I 損害率	58.9 %	59.2 %	0.3 Pt 上昇	59.0 %
② 既経過保険料ベース事業費率	32.1 %	35.2 %	3.1 Pt 上昇	34.8 %
③ コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)	91.0 %	94.4 %	3.4 Pt 上昇	93.9 %
④ 単体ソルベンシー・マージン比率	295.6 %	305.6 %	10.0 pt	315.0 %前後

アニコムグループ

中期経営計画 2020

2018年 8月8日（改定）



証券コード：8715

01 グループ全体像



■ 子会社の経営管理事業

資本金：4,443百万円
設立：2000年7月

■ 損害保険業（ペット保険）

資本金：5,050百万円
設立：2006年1月

■ 保険代理店業

資本金：45百万円
設立：2005年2月

■ 動物病院支援事業

資本金：495百万円
設立：2004年12月

■ 動物医療の臨床・研究事業

資本金：300百万円
設立：2014年1月

■ ベンチャー・キャピタル事業

資本金：100百万円
設立：2015年7月

02 グループ沿革

2000年 4月	任意組合として anicom（どうぶつ健康促進クラブ）設立	2008年 1月	アニコム損保(株)がペット保険の販売を開始
2000年 7月	anicomから「どうぶつ健保」事務受託会社として(株)ビーエスピー設立 (2005年1月にアニコム インターナショナル(株)に、2008年6月に アニコム ホールディングス(株)に、それぞれ商号変更)	2008年 4月	アニコム損保(株)がペット保険の補償を開始
2004年12月	アニコム パフェ(株)設立	2009年11月	「家庭どうぶつ白書」発刊（以降、毎年発刊）
2005年 2月	アニコム フロンティア(株)設立	2010年 3月	アニコム ホールディングス(株)が東証マザーズ上場（証券コード：8715）
2006年 1月	保険会社設立準備のため、アニコムインシュランスプランニング(株)設立 (2007年12月にアニコム損害保険(株)に商号変更)	2014年 1月	日本どうぶつ先進医療研究所(株)（現「アニコム先進医療研究所(株)」）設立
2007年12月	アニコム損害保険(株)が損害保険業免許を取得 アニコム インターナショナル(株)が保険持株会社としての認可取得	2014年 6月	アニコム ホールディングス(株)が東証一部に市場変更
		2015年 7月	アニコム キャピタル(株)設立
		2016年 4月	当社49%、富士フイルム(株)51%出資の動物の再生医療に関する合併事業として、セルトラスト・アニマル・セラピューティクス(株)を設立



アニコムグループでは「**多様性**」を重視・尊重した経営を行っています。
新たな価値を生み出すための柔軟な発想は、単一的・画一的な組織や共同体では得られません。
そのため当社グループでは、**多種多様な人材**（約100名の獣医師をはじめ、医師、医学/農学/理学博士、
弁護士、公認会計士、アクチュアリー、デザイナーなど）と分業協力することで、成長を図っています。

また、どうぶつから細菌まで**すべての生命の多様性を尊重**することで
これからも新たな価値を社会に提供してまいります。

■長期 経営VISION

どうぶつが生み出す「心の発電力」を高めることで
新たな有効需要とエネルギーを創出し、
どうぶつとひと双方の健康寿命延伸に貢献します。

■中期 経営VISION

どうぶつ業界のインフラプレーヤーとして、
すべての生命の多様性を認識し、
「遺伝病の不安のない世界」と「健康寿命延伸」という
新たな価値を提供します。

■2018 経営VISION

グループのリソースを結集し、どうぶつ業界における
川上から川下までの全てを発展的に繋ぐインフラプレーヤー
の確立に向けた足取りを加速します。



1. 中期経営計画

2. ペット保険事業

3. ほか子会社事業

4. 予防に向けた各種取組み

(1) 経営戦略

(2) 既存事業戦略（ペット保険）

(3) 新規事業戦略

(4) 重点施策

(5) 3か年 数値計画（連結）

(6) 単年度 数値計画（連結）

(7) ESGへの取組み

(8) 株主還元

1. 中期経営計画 (～2020)

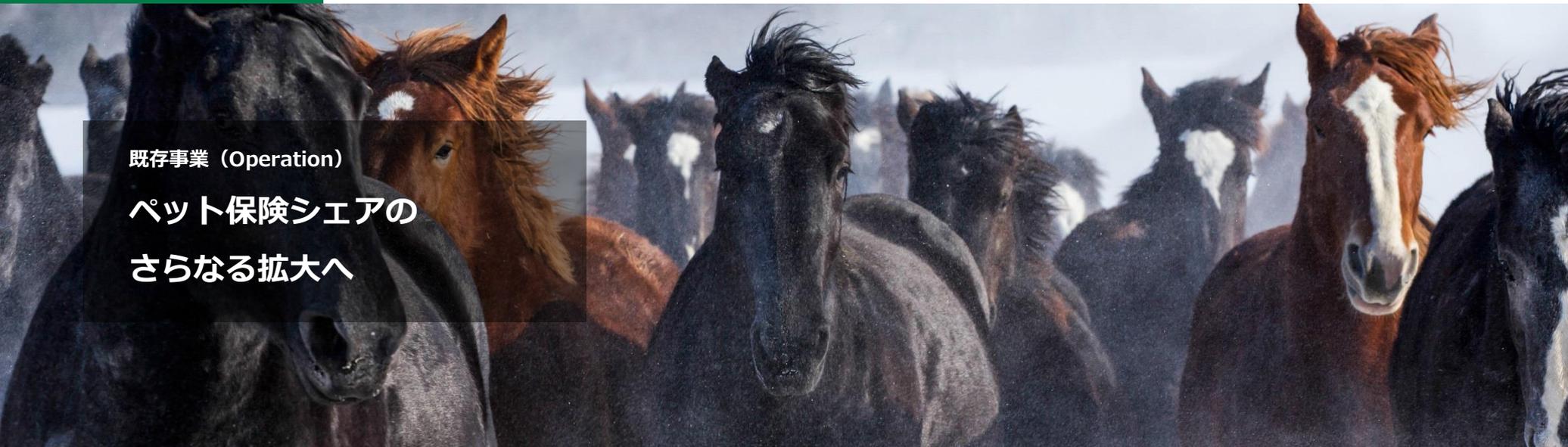


既存事業 (Operation) ペット保険事業のさらなる拡大

新規事業 (Innovation) ペットの生涯全てと接するインフラビジネスを加速

ペット保険
“ 既存事業の拡大を継続し、新規事業の果実を確かなものに ”

- 01 どうぶつ業界のインフラプレーヤー確立に向けた足取りを加速すべく、既存事業を引き続き成長させ、圧倒的なシェア・地位を得る。
- 02 遺伝病の不安のない世界を目指し、遺伝子検査事業を本格化。併せて、ブリーディング支援について早期の事業化を目指す。
- 03 リスクと資本の最適なバランスを図ったうえで計画・実行し、企業価値の最大化に挑む。



既存事業 (Operation)
ペット保険シェアの
さらなる拡大へ

01 規模拡大路線を継続

最重要ターゲットである「新生児 (New Born) チャネル」とともに、既存の飼育動物をターゲットとした「一般チャネル (WEB販売、銀行窓販等)」にも注力している販売戦略を継続する。特に、昨年から注力するオンラインでの契約数を増加させ、国内普及率およびシェアを効率的に拡大し、中期での加速度的な収益増大を目指す。

02 販売チャネルの拡大へ

保険販売チャネルの拡大を目指す。ブリーダーチャネルの開拓や、保護猫の譲渡会、その他どうぶつ関連施設 (動物病院・トリミングサロン等) での販売を拡大すべく、営業力をさらに強化。また、WEB販売においても、ペット保険とシナジーのあるパートナーとの提携を模索し、保険販売チャネルを拡大していく。

03 次世代の保険商品開発へ

遺伝子・共生細菌に関する研究成果を用いて、バイオテクノロジーと金融商品を合わせた次世代の保険を開発していく。アニコムにしかできない商品の開発でコアコンピタンスを強化し、ペット保険シェアの更なる拡大を目指す。

新規事業（Innovation）

ペットの生涯すべてと接する
インフラビジネスを加速



01 遺伝病撲滅を、事業に

純血種を保つことで、発生のリスクが高まるペットの「遺伝病」に対し、2つの方法で撲滅を目指し、保険金の削減に繋げていく。1つ目は、遺伝子解析といった科学・技術・データに、医療のサポートを加え収益化し、遺伝病を撲滅するためのフリーディング支援を行う。2つ目は、遺伝病の発症予防を事業化するとともに、疾患に関連する未知なる遺伝子の解明を目指す。

02 共生細菌と生活習慣

世界トップクラスのペットの腸内フローラに関する研究データと、ペットの生活習慣に関するデータベースをあわせて、ペットの長期的な健康寿命延伸を図る。腸内フローラ検査による健康チェック（腸活；ちょうかつ）の普及、共生細菌をキーにしたフード開発、生活習慣コンサル等を事業化し、収益に繋げていく。

03 どうぶつ医療の発展に寄与

どうぶつ医療における高度先進医療（細胞治療、再生医療）を実用化し、拡大を図る。また、カルテ管理システム事業の拡大（予約システム等の機能の拡充）等とあわせ、データの更なる活用による予防法の開発、ペット関連事業の海外展開を目指す。

短期（1か年）

中期（1～3か年）

長期（3～5か年）

「事業基盤の強化」

- ・ペット保険の収益力拡大路線を継続・加速
- ・遺伝病対策、健康診断、再生医療をキーとした新規事業の果実を確かなものとする

01 売上の拡大

- (1) 一般契約の大規模な獲得（効率的なWEB戦略）
- (2) ペットショップチャンネルの更なる拡大
- (3) ブリーダー・譲渡会等のチャンネルの新規開拓
- (4) 無事故・NB2年目の継続率の向上
- (5) 新商品の開発

02 費用の改善

- (1) 保険金の適正化（誤請求・不正請求の防止を徹底）
- (2) ペットの生活習慣に関する予防の取組みを拡充

03 新規事業への投資

- (1) 遺伝子検査事業を本格化（支援事業化）
- (2) 腸内フローラ測定等の販売を拡大
- (3) 予防医療の推進
- (4) カルテ管理システム事業の拡大・機能追加
- (5) 細胞治療・再生医療の実用化・拡大
- (6) 動物病院事業の海外展開スタート

「インフラビジネスの構築」

- ・シェア・普及率の拡大を継続
- ・ペット産業のインフラビジネスの構築
- ・ビッグデータ活用による新たな収益柱の確立

01 盤石なペット保険事業の確立

- (1) ペット保険におけるシェア・普及率の拡大を継続
- (2) コンバインド・レシオを90%前後へ
- (3) SM比率360%の水準を目指す

02 ペットのインフラビジネスの構築

- (1) 遺伝病フリーのブリーディング支援
- (2) 生活習慣改善（食事・運動・しつけ）と予防医療
- (3) 疾病の早期発見ツール確立による重症化予防
- (4) 細胞治療・再生医療等の高度医療の推進
- (5) 海外ペット関連事業の拡大
- (6) ペット産業で働く人の支援（人材紹介・派遣等）

03 ビッグデータの活用

- (1) 保険金請求に基づく疾病データの活用
- (2) 診療データ（アニコムレセプター）の活用
- (3) 遺伝子情報の活用
- (4) IoT（見守り・AI等）

04 ひと分野への足掛かり

- (1) 医療保険の販売

「多様な事業の展開」

- ・予防型保険会社の実現
- ・インフラビジネスの収益拡大
- ・海外、ひと分野への展開

01 予防型保険会社の確立に向けて

- (1) ペット保険の当たり前化
- (2) 遺伝病リスクの排除
- (3) 遺伝子情報証明書の発行
- (4) 発症予防に向けたフード等の提供
- (5) 自宅での健康マネジメント法の確立

02 インフラビジネスの収益拡大

- (1) 遺伝学に基づくブリーディング支援の確立
- (2) 飼育環境の総合的なサポート
- (3) フード関連事業の展開
- (4) 動物病院紹介事業
- (5) 高度医療・予防医療の多面的展開

03 海外展開・ひと分野への展開

- (1) インフラビジネスの海外輸出
- (2) ひと分野への保険・周辺事業の展開

(5) 3か年数値計画 (連結)

1. 中期経営計画 (～2020)

2018年8月8日 修正

(百万円)

連結	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
経常収益	32,339	36,464	41,400	46,370
保険引受収益	31,290	34,852	39,600	43,870
資産運用収益	420	600	600	700
その他経常収益	628	1,012	1,200	1,800
経常費用	30,486	33,935	38,500	42,670
保険引受費用	21,771	24,486	28,000	30,840
営業費一般管理費	8,479	8,954	9,469	10,300
その他の経常費用等	235	495	1,030	1,530
経常利益	1,853	2,529	2,900	3,700
税引前利益	1,839	2,509	2,880	3,680
当期純利益	1,320	1,731	1,990	2,540
連結ROE	10.3%	12.4%	12.4%	13.9%
修正利益	1,702	2,195	3,615	4,525

■ 修正利益

経常利益から異常危険準備金、資産運用収支、その他経常収支等の影響を除外した利益であり、『ペット保険事業の実質的な損益』を表す当社グループ独自の指標。

01 | 引き続き、保険事業の規模拡大を進め、収益を拡大させていきます

02 | 一定の利益追求の経営を行い、株主還元に努めます

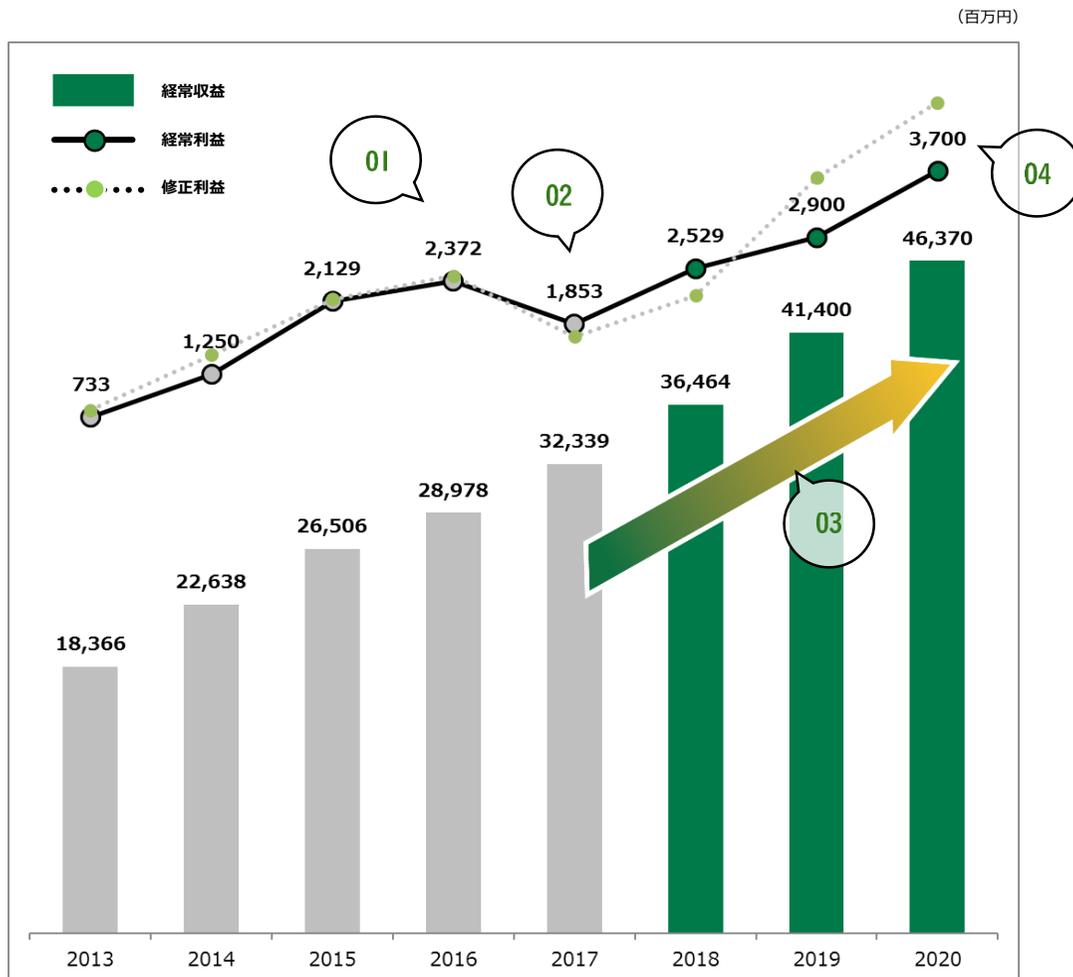
03 | 「その他経常収益」を、3年で3倍に伸ばします

04 | ROE 2桁を維持し、15%を目指します

(5) 3か年 数値計画 (連結)

1. 中期経営計画 (～2020)

2018年8月8日 修正



加速度的な成長を

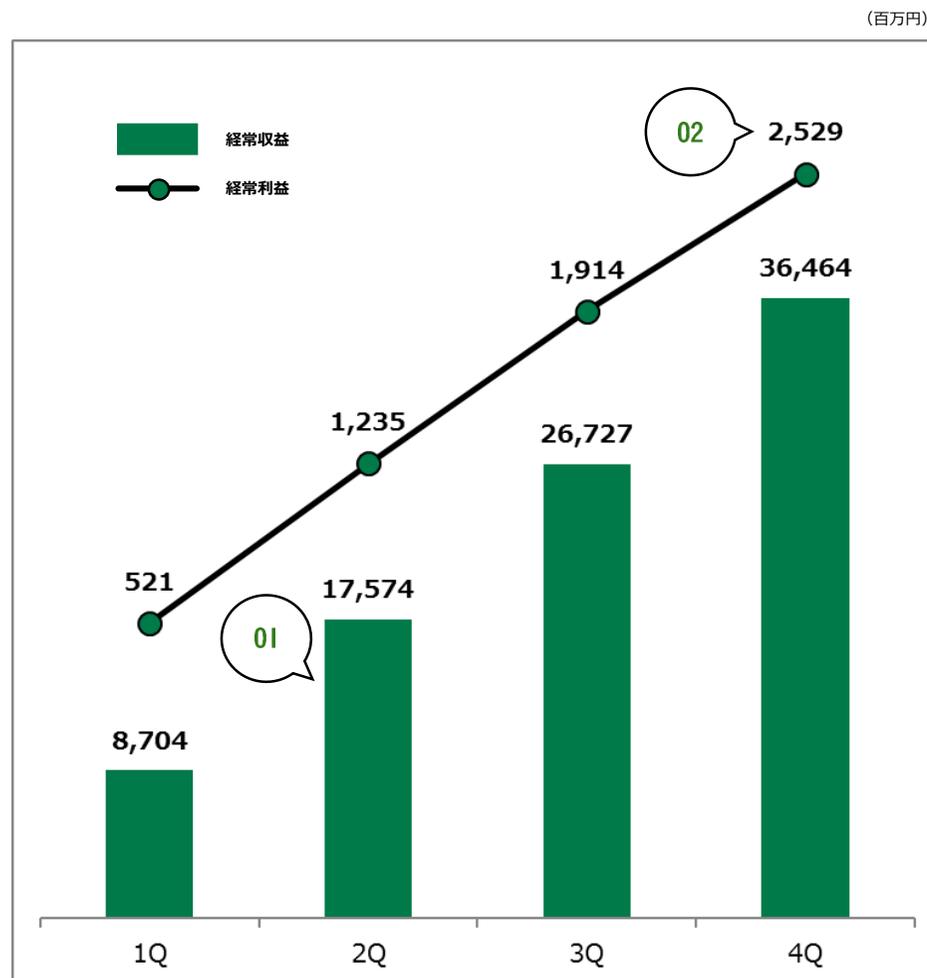
| 3か年 数値計画

- 01 過去最高益の更新
- 02 規模拡大に向けた投資により、一旦減益
- 03 これまで以上の収益伸長
- 04 利益を拡大！

(6) 単年度 数値計画 (連結)

1. 中期経営計画 (～2020)

2018年8月8日 修正



下半期での利益伸長が特徴

| 単年度 四半期累計 数値計画

- 01 ペット保険の規模拡大に伴う収益の安定成長
- 02 ペット保険は季節性あり。4Qでの利益増

Environment

どうぶつの尊厳を守ります

どうぶつに携わる会社として、殺処分ゼロ、動物虐待ゼロ、飼育環境向上に対してアクションを起こします。

「地球のお医者さん」を目指します

細菌の研究から高度先進医療まで、地球のあらゆる生命体と共存するための活動を行っていきます。

Social

女性の活躍の幅を「さらに」広げます

現在、女性社員の割合は約6割、管理職に占める割合は約3割、女性役員も2名が活躍しています。

※2018/3/31時点（グループ全体）

「家族」を、大切にします

従業員の子供がパパ・ママの仕事を参観する「こども参観日」の実施や、どうぶつをお迎えした日には休暇を取ることができるサポートなど、ペットを含む「家族」を大切にする経営を行います。

Governance

社外取締役の増員等で、ガバナンスを強化します

社外取締役の増員、執行役員制度の導入などで、経営の監督と執行を明確に分離させます。

指名・報酬・ガバナンス委員会を設置します

社外取締役を主要な構成員とする、取締役会の委託を受けた諮問委員会を設置。代表取締役の指名や報酬のほか、内部管理態勢等を含むガバナンス全体の実効性について議論を行います。

内部管理態勢をより一層強化します

関連部署の人員を増員し、これまで以上のガバナンスの態勢を目指します。

理念に基づく 株主還元方針

01 現状に満足せず、成長のための投資を続けます

収益の拡大や新たな価値創造に向けて成長投資を続け、ROE二桁の維持・向上を目指します（2020年度14.6%目標）。

02 安定的な財務基盤を構築します

将来の企業価値向上のための資本を確保し、中期的に、リバンス・マージン比率 360%以上（※）を目指します。

※アニコム損保単体

03 株主への還元を続けます

上記を踏まえ、業績推移等も勘案しながら、継続的・安定的な利益配分を行っていくことを基本方針とします。

1. 中期経営計画

2. ペット保険事業

3. ほかに会社事業

4. 予防に向けた各種取組み

(1) ペット保険を取り巻く市場環境

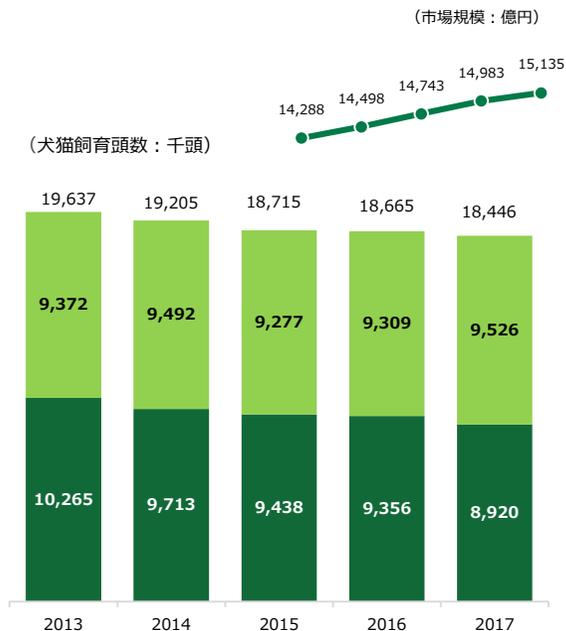
(2) ペット保険商品について

(3) アニコム損保の強み

(4) ペット保険主要数値計画 (3か年)

(5) 主要経営パラメーター

01 犬猫の飼育頭数

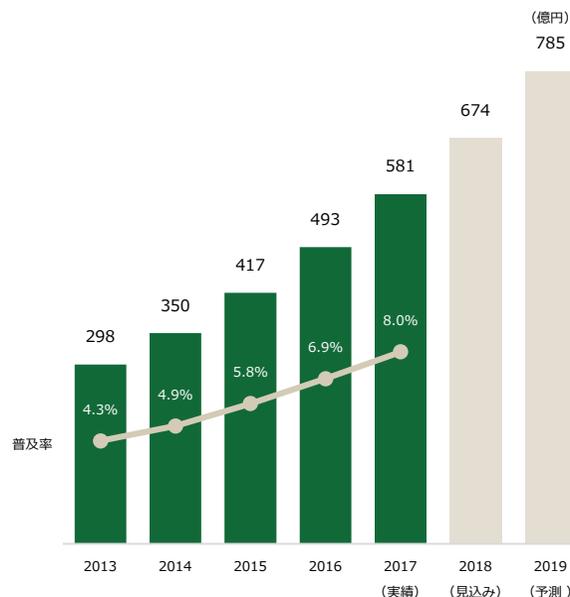


出典：一般社団法人 日本ペットフード協会、
(株) 矢野経済 ペットビジネスマーケティング総覧2018年版

ペットの数は逡減も、市場は伸長

飼育頭数は逡減傾向ですが、ペット産業の市場規模は拡大中です。一頭あたりにかける飼育費が上昇傾向にあり、保険等を含め、家族として愛情を注ぐ方が、増えていると考えられます。時代情勢を踏まえ、高齢者や猫などをターゲットとした商品戦略が必要と考えております。

02 ペット保険市場規模

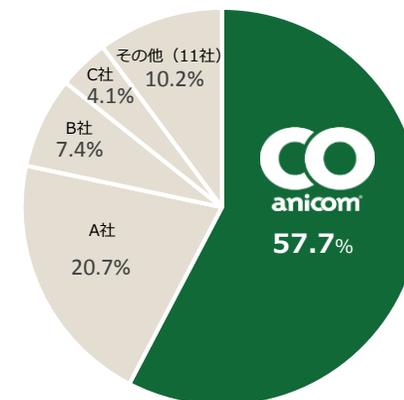


出典：(株) 富士経済 2018年 ペット関連市場マーケティング総覧

ペット保険の普及率は、約8%

ペット保険の国内普及率は順調に伸びつつあるものの、未だ8%に留まります。一方、ペット保険の歴史が長い英国での普及率は25%を超えるとされており、日本においても、将来的には英国並みの普及率を目指すことができると考えられ、今後も高い成長性が見込まれます。

03 保険シェア (保険料ベース)



出典：各社決算開示情報

シェア No.1

ペット保険会社は計15社（うち4社が保険会社、11社が少額短期保険会社）あり、市場規模に比して厳しい競争環境が続いています。このような市場の拡大期においても、アニコム損保は過半のマーケットシェアをキープし続けており、業界の首位を独走しています。

01 ペットの健康保険



70%・50%の2つの補償プラン

全国どこでも使える「フルカバー型商品」

通院・入院・手術で受けた診療費を補償。全国どの動物病院で受けた診療でも保険の利用が可能。補償割合は、70%プランと50%プランの2つがあり、それぞれ保険料が異なります。

※商品名「どうぶつ健保 ふぁみりい」

安価でしっかり「入院・手術特化型商品」

入院と手術の補償に特化し、保険料をこれまでの約1/3に抑えた新商品（2017/10/2販売開始）。安価な保険料で「もしも」にしっかり備える商品です。

※商品名「どうぶつ健保 ぶち」

(注) いずれも、死亡を補償する商品ではありません。

02 保険料と、商品の特長

	ふぁみりい70%プラン 支払割合 70%	ふぁみりい50%プラン 支払割合 50%
通院	1日あたり最高14,000円まで ※1年間に利用できる日数は各20日までです。	1日あたり最高10,000円まで ※1年間に利用できる日数は各20日までです。
入院	1日あたり最高14,000円まで ※1年間に利用できる日数は2回までです。	1日あたり最高10,000円まで ※1年間に利用できる日数は2回までです。
手術	1回あたり最高140,000円まで ※1年間に利用できる回数は2回までです。	1回あたり最高100,000円まで ※1年間に利用できる回数は2回までです。

フルカバー商品の限度額、限度日数

品種と年齢で決まる保険料

「チワワの1歳」（70%プラン/フルカバー型商品）であれば、保険料は年間約34,000円。「ゴールデン・レトリバーの5歳」であれば、約63,000円です。他社に比べ、年齢による保険料のカーブが緩やかであることが特長です。

限度日数等で、損害率にキャップ

いずれの商品にも、保険の限度額と限度日数があり、損害率のコントロールを行っています。ただ、中でも、納得感のある補償が受けられるような、手厚い補償内容としています。

03 多様などうぶつを引受け



全13種のどうぶつ種を引受

対象となるどうぶつは13種

犬と猫はもちろん、鳥、うさぎ、フェレットなどペットとして人気があるどうぶつ種も引受け。また、2016年から、モモンガ・リス・ハムスター・ネズミ・モルモット・ハリネズミ・カメ・トカゲといった多様などうぶつ種を引受け対象として追加。

終身の継続が可能

新規加入は、犬猫で8歳未満（7歳11ヶ月）まで。損保商品のため、1年毎に契約更新は必要なものの、原則終身での継続が可能となっています。



契約者・動物病院・アニコムの3者をシームレスに繋ぐ「窓口精算システム」を、全国レベルでほぼ確立。新規参入が難しく、高い競争優位性を保持。

01 高い顧客利便性

ひとの国民健康保険と同様、窓口で保険証を提示すれば、自己負担分を支払うだけで済む保険の仕組み「[窓口精算システム](#)」を、日本で初めて構築。少額かつ高頻度に利用されるどうぶつ医療の特性に合わせ、保険の使いやすさを重視したこのビジネスモデルがアニコム損保の最大の強みです。

02 6,200以上の病院と提携

開業当初から拡大に取り組んできた「[アニコム対応病院](#)」は6,200病院（全国病院の5割以上）を超え、その数は、他社と圧倒的な差があり、高い競争優位性を誇っています。また、ペット保険のビジネスモデルを展開するには、この動物病院との提携が不可欠であり、事実上の参入障壁になっています。

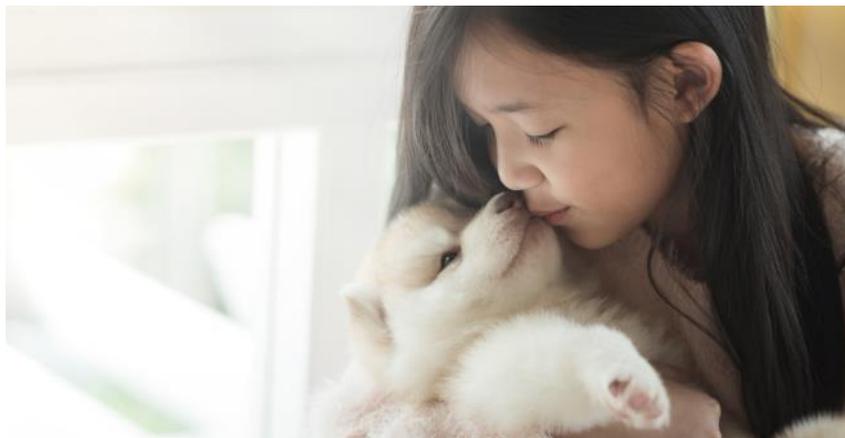
03 事務コストの低さ

契約者が郵送で保険会社に請求する従来型のビジネスモデルでは、一件ごとに振込手数料、郵送費、査定等の事務コストがかかりますが、これを10分の1程度に圧縮。約85%が窓口精算による請求ですが、それ以外では、[LINEで保険金請求ができるシステムを導入](#)し、利便性と業務効率の高さを両立させています。

01 NB (New Born) チャネル

(FLOW)

主にペットショップで販売される0歳児を対象とした当社最大のチャネル。幼齢のため損害率が低く、契約率の高さが特徴。



ペットとの「出会いの場面」で保険を販売

これから家庭に迎えられるどうぶつを対象としたチャネル。全国の主要なペットショップ（約2,000店舗）と代理店契約を結び、生体販売時にペット保険を販売。また、ペットショップだけでなく、猫譲渡会やブリーダーチャネルの開拓も進めており、さまざまなペットとの「出会いの場面」における保険販売に注力しております。

加入しやすい商品設計

家庭に迎えられたばかりのペットは、急激な環境の変化から体調を崩すことが多いため、NB向け商品では、初めの1ヶ月間にかかった診療費の100%を補償するプランをつけることで、加入意欲の向上に繋がっています。また、若齢であることから一般チャネルに比べ中期的な損害率は低く、経営効率の向上にも寄与しています。

02 一般チャネル

(STOCK)

WEB（当社直販・WEB代理店）や銀行窓口などで販売するチャネル。既に飼育されているペットを対象とする、豊富なマーケットが特徴。



豊富なマーケット

すでに飼育されている犬と猫（全国で約1,840万頭）およびその他のペットを対象としたチャネル。当社HPでのオンライン契約はもちろん、WEB代理店での販売や、金融機関における窓口販売も行っています。※主な代理店：ソニー損保、朝日生命、ベネッセ、地域生協、ヤマセ、地方銀行、信用金庫など

戦略的なマーケティングで規模拡大を目指す

犬猫では、8歳未満のどうぶつが対象。マーケットは巨大であるものの、NBに比べ加入時の年齢が高いことから、損害率への影響を考慮しながら戦略的なマーケティングを行いつつ、拡大を目指します。また、不正防止のため、厳正な加入前審査や待機期間を設けるなどしてコントロールを図っています。



01 獣医師の専門性を保険に活用

正確な保険金の査定のためには、診療明細書の内容からその診療歴をストーリーとして見通す力が必要です。獣医師の知識や臨床獣医療で培った経験から、正確かつ迅速な査定を行っています。また保険の引受審査においても獣医師が多数活躍し、健康状態や病歴を把握し、公平な保険の引受体制を構築しています。

02 ペットショップへの支援

保険販売の主力であるペットショップにおいて、獣医師が生体管理・衛生指導等のサポートをしています。お迎えするどうぶつが健康体であることは、損害率低下という保険運営上の観点からだけでなく「獣医師がきちんと診ている」という飼い主の安心感や、迎えた後のペットショップへのクレーム削減にも繋がっています。

03 唯一無二のサービスを展開

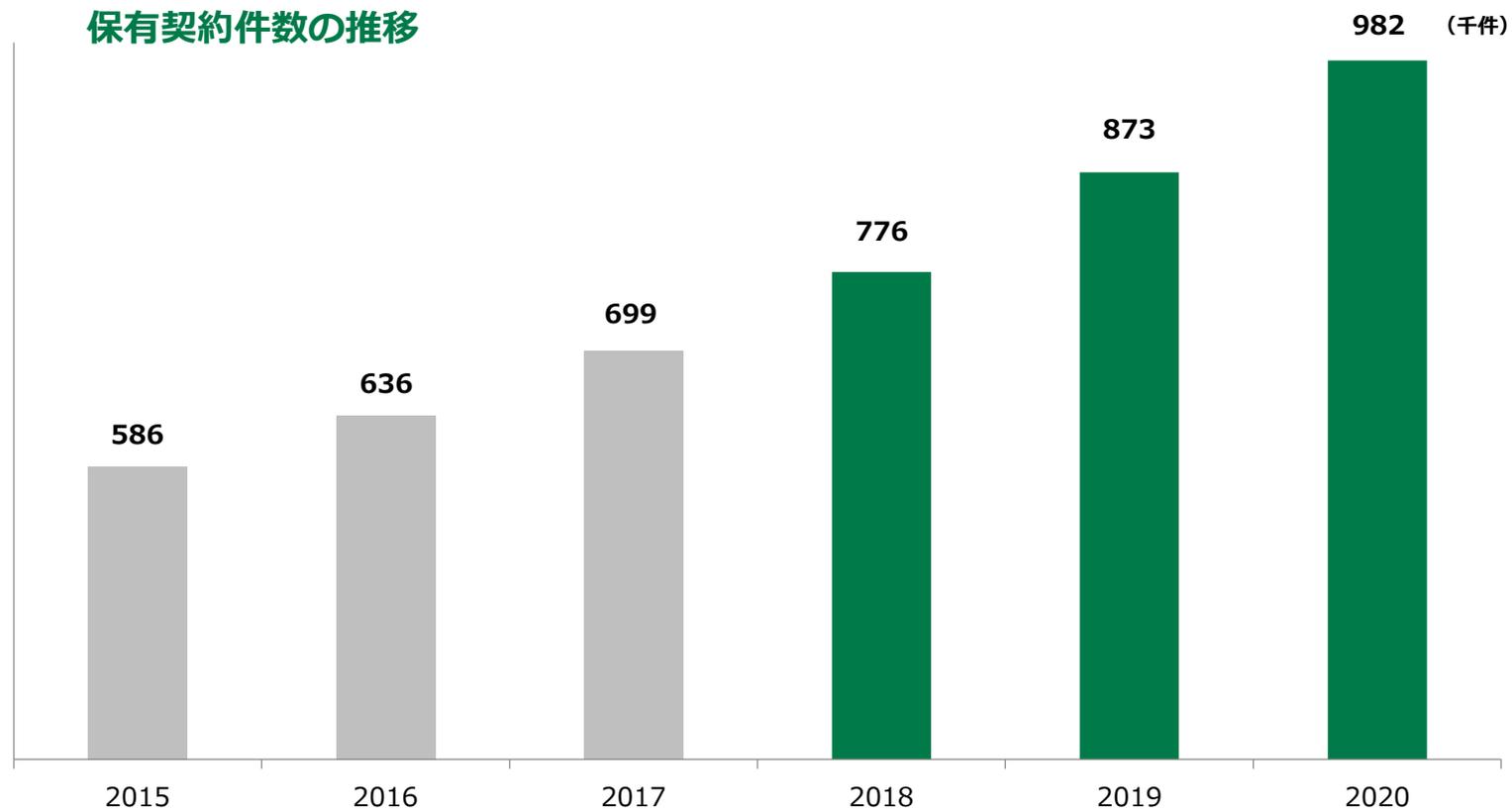
従来から展開していた電話での健康相談に加えて、LINEで気軽に獣医師に相談できる「[どうぶつホットライン](#)」を展開しています。病気や健康、しつけのことなど、LINEで気軽に相談することが可能です。多種多様な経歴・得意分野をもつ獣医師が在籍しているからこそ、様々な悩みに対応が可能です。

(4) ペット保険主要数値計画 (3か年)

2. ペット保険事業

2018年8月8日 修正

保有契約件数の推移



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
コンバインド・レシオ	91.2%	91.0%	94.4%	93.9%	92.4%	91.7%
損害率	60.1%	58.9%	59.2%	59.0%	57.4%	56.4%
事業費率	31.1%	32.1%	35.2%	34.8%	35.0%	35.3%

(5) 主要経営パラメーター

2. ペット保険事業

2018年8月8日 修正

	①	②	②-① 対前期末	
	17年3月期末	18年3月期末	件数	率
① 保有契約数	635,670 件	698,566 件	62,896 件	9.9 %
② 新規契約数	123,849 件	143,365 件	19,516 件	15.8 %
③ 継続率	88.2 %	88.2 %	-	-
④ 保険金支払件数	2,823 千件	3,006 千件	182 千件	6.5 %
⑤ 対応動物病院数	6,083 病院	6,265 病院	182 病院	3.0 %

③ 19年3月期末 (5月9日予想)	③-② 対前期末	
	件数	率
776,080 件	77,514 件	11.1 %
166,000 件	-	-
88.2 %	-	-
3,218 千件	211 千件	7.0 %
6,400 病院	135 病院	2.2 %

	17年3月期末	18年3月期末	対前期末
① E/I 損害率	58.9 %	59.2 %	0.3 Pt 上昇
② 既経過保険料ベース事業費率	32.1 %	35.2 %	3.1 Pt 上昇
③ コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)	91.0 %	94.4 %	3.4 Pt 上昇
④ 単体ソルベンシー・マージン比率	295.6 %	305.6 %	10.0 pt

19年3月期末 (8月8日予想)
59.0 %
34.8 %
93.9 %
315.0 %前後

1. 中期経営計画

2. ペット保険事業

3. ほか子会社事業

4. 予防に向けた各種取組み

(1) アニコム パフェ株式会社

(2) アニコム フロンティア株式会社

(3) アニコム先進医療研究所株式会社

(4) アニコム キャピタル株式会社

(5) セルトラスト・アニマル・セラピューティクス株式会社

動物病院支援や飼い主サポートを通じて、
どうぶつとの暮らしをより豊かに。

※WEB環境の場合は、右のロゴをクリックしてHPにジャンプできます。



設立：2004年12月24日 資本金：495百万円

01 動物病院支援事業



患者情報から会計管理まで、病院業務全般をサポートする動物病院向けクラウド型カルテ管理システム「[アニコムレセプター](#)」の開発・販売等の、動物病院経営を支援する各種サービスを展開しています。

02 飼い主サポート事業(物販等)



オンラインショップ「[パフェオンライン](#)」、子犬子猫の検索サイト「[ハローべいびい](#)」の運営、迷子検索、獣医師等による電話での24時間健康相談サービス「[anicom24](#)」など、どうぶつと飼い主の暮らしをサポートする事業を幅広く展開しています。

03 ペット霊園紹介事業



ペットへの愛情が深まる中、ペットが亡くなった際の葬儀を、しっかりしてあげたいというニーズが高まっています。アニコム独自の基準をクリアした信頼できる霊園を、[ペット霊園紹介サイト](#)でご紹介しています。

保険と、職業紹介。 2つの軸で、どうぶつ業界で働く人を支える。

※WEB環境の場合は、右のロゴをクリックしてHPにジャンプできます。



設立：2005年2月25日 資本金：45百万円

01 保険代理店業



「勤務中にスタッフがどうぶつに咬まれてしまった、どうぶつにケガをさせてしまった…」どうぶつと関わる仕事には、特有のリスクがつきものです。そうしたリスクから経営者やスタッフを守る保険をはじめ、各種生保・損保の提供を通じ、どうぶつ業界で働く人をサポートします。

02 職業紹介事業



獣医師、動物看護師、トリマー、研究者など動物関係者に特化した求人サイト「[アニジョブ](#)」の運営を通じ、どうぶつ好きの方が長く安心して働けるような環境づくりに貢献することを目指しています。

03 人材教育事業



これからの業界をになう人材育成のため、ペット業界の現場で即戦力となる知識と資格を身につけられるような各種講座を、専門学校や動物病院で開催しています。

研究と臨床で、どうぶつ医療に明るい未来を。

※WEB環境の場合は、右のロゴをクリックしてHPにジャンプできます。



設立：2014年1月24日 資本金：300百万円

01 研究・開発



どうぶつに関する基礎研究・医療技術・医療機器の開発などを行っています。2016年12月には横浜市にラボを開設。基本的な研究機器のみならず、膨大なDNAの解析ができる次世代シーケンサーや代謝物など様々な物質を分析できるクロマトグラフィーなど、先進的な研究機器も揃え、日々研究を進めています。

02 高度医療の提供



神経性疾患（脊髄損傷・椎間板ヘルニア等）の診療を行う動物病院を運営しています。これまで治せないと思われていた疾病を治し、どうぶつの健康寿命延伸への寄与を目指しています。

03 動物病院の運営



予防に特化した動物病院を自社で運営しています。さらに、どうぶつ医療に対する標準診療、ガイドラインの策定を行うことで、どうぶつ医療の標準化を目指しています。

日本で唯一、どうぶつ医療・ペット関連分野に 特化したベンチャーキャピタル企業

※WEB環境の場合は、右のロゴをクリックしてHPにジャンプできます。



設立：2015年7月7日 資本金：100百万円

01 ベンチャー企業投資・育成



主に、どうぶつ医療分野・ペット関連分野の成長を牽引する有望なベンチャー企業や、イノベーションにつながる研究開発に対する投資・育成に取り組むことで、どうぶつから始まる価値創造を具体化し、日本経済の更なる発展に寄与します。

02 共同研究・事業開発助成



獣医療の発展およびペット関連市場の拡大に資する研究や事業開発に対する助成を行うプログラム「EVOLVE」を展開し、新たな価値の創出を目指します。

FUJIFILM × anicom®

「信頼」と「細胞」により、再生医療・細胞治療を中心とした先端医療の実用化・普及を通じて、獣医療に貢献する。

※WEB環境の場合は、右のロゴをクリックしてHPIにジャンプできます。

Celltrust Animal
Therapeutics Co., Ltd.

設立：2016年4月1日 資本金：50百万円
出資比率：富士フイルム 51% / アニコムHD 49%

01 先進医療の開発～診療



「細胞治療」の実用化を進めています。
トランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)の担い手として、大学や企業が行ってきた基礎研究成果を先端的な診療法として実用化させることに特化した活動、R&D(Research & Development)の「D」に特化した活動を行い、獣医療で細胞治療を普及する社会システムの開発の一環として、診断や治療における科学的なエビデンスを構築していくことを最重点にして開発を行っています。

02 ソリューションの提供



一般診療を行う動物病院においても、先端的な診療法を実践していただけるようにすることが最終的な目標です。細胞治療の場合は、単にその診療法を開発するだけでなく、同社の動物再生医療センター病院と一般診療を行う動物病院とで連携する仕組みを構築します。



1. 中期経営計画

2. ペット保険事業

3. ほか子会社事業

4. 予防に向けた各種取組み

(1) 予防にかける想い

(2) 予防戦略の全体像

(3) 遺伝病

(4) 共生細菌

(5) ビッグデータ

(6) その他各種サービス

予防型保険会社の実現へ。

すべての保険会社にとって、事故や病気のデータは貴重です。その膨大なデータを統計学的に活用することで、自社の保険を運営しているからです。

しかし、そのデータは保険会社のためだけに利用されるのではなく、社会全体のために活かされるべきものと考えています。例えば、全国の主要な交差点の事故データをカーナビに組み込めば、交通事故は減らせるでしょう。

であるならば、保険会社が社会の中で担う本質的な役割とは、事故や病気が起きたあとに「涙を拭く」ことではなく、未然に「涙を防ぐ」ことなのではないでしょうか。

私たちは、創業当時からこの想いを抱き続けています。病気にさせない「予防型保険会社」を実現するために、これからも予防に挑戦し続けます。



アニコム ホールディングス株式会社 代表取締役社長

小森伸昭

(2) 予防戦略の全体像

4. 予防に向けた各種取組み



4. 予防に向けた各種取り組み

ペットの遺伝病は、無くせる。

ひとのかけがえのない使役動物（パートナー）として、それぞれのフィールドに合わせて進化してきた「犬種」。その歴史がある一方で、病的な遺伝子も色濃く受け継がれることがあります。ひとでは遺伝病の対策は困難を極めますが、ペットの遺伝病は、ブリーディング等により撲滅できる可能性があります。



(遺伝病プロジェクトロゴ)

01 遺伝病フリーのブリーディング支援



例えば、[変性性脊髄症 \(DM\)](#) という病気は、ウェルシュ・コーギーに多く発生する遺伝病で、一度発症してしまうと完治できず、1年半ほどで死に至る場合が多くなっています。しかし、個体によっては、この遺伝子変異を持たないもの（クリア個体）もいます。ブリーディングの際に、このクリア同士を掛け合わせれば、理論上DMは撲滅することができます。こうしたブリーディングサポートを行うことで、遺伝病のない健康な犬猫の流通を促すとともに、疾患に関連する未知なる遺伝子の解明を目指し、遺伝病に苦しむどうぶつを減らしていきます。

02 遺伝子検査等事業の展開

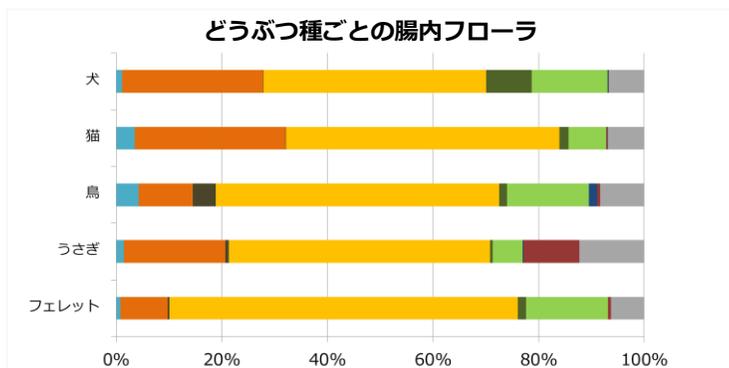


アニコム先進医療研究所(株)では、[疾患関連遺伝子に関する研究](#)を進めており、トップレベルの解析技術を確立しています。今後、さらに研究の幅と深度を深め、新規遺伝病の発見や独自の検査技術の開発を進めるとともに、これらの検査の事業化を見据えています。検査だけでなく、治療の研究も併せて進めることで、遺伝病の素因を持っていても安心できる環境の創出（遺伝病発症リスクの排除）を目指します。また、どうぶつの遺伝子関連事業をブランド化し、遺伝病撲滅に向けた啓発を行っていきます。

無限の可能性を秘める細菌達との、より良い共生を

近年、その可能性の高さから世界中の研究者たちが関心を集める腸内細菌等の共生細菌。アニコムでは、2016年からどうぶつに関する研究をスタートし、既に2万検体を超える膨大な検査データを有しています。このデータを基に事業化を進め、どうぶつの健康寿命延伸を目指します。

01 豊富な研究実績



2016年からアニコムが開始したどうぶつの共生細菌（腸内等）検査は、既に1万検体を超えます。[アニコムの研究](#)では、どうぶつ種ごとに特徴的な腸内細菌叢（腸内フローラ）があることがわかりました。また、共生細菌の検査結果を保険金請求データや[どうぶつkokusei調査](#)（生活習慣に関する当社独自調査）と照合することで、一部の疾病や生活習慣との関係も明らかになりつつあり、今後論文等での発表を行っています。既に実施している保険契約者向けの腸内細菌検査（腸活）を契約者以外にも拡大し、事業化を目指します。

02 共生細菌をキーにした各種事業の展開



01に示す研究結果を基にした各種事業やサービスの展開を目指しています。例えば、共生細菌と密接に関係する食事や飲料について研究を進め、どうぶつ種ごとの最適な食事や生活習慣を明らかにすることで独自または共同でペットフードやサプリメントの開発などを目指します。

共生細菌をキーとしたこうした保険以外の事業を展開することにより収益増加を目指すとともに、発症予防、重症化予防による保険金の削減を実現します。

4. 予防に向けた各種取組み

1,500万件を超えるどうぶつ医療データを「予防」に

のべ1,500万件を超える保険金請求データを中心に、[どうぶつkokusei調査](#)や[アニコムレセプター](#)（動物病院向けカルテ管理システム）などのビッグデータを有する当社グループでは、これらの財産を生かし、次世代予防法の確立を目指すとともに、保険金の削減に繋がっていきます。

01 国内最大規模のどうぶつ医療統計冊子



2009年から無料で公開している「[家庭どうぶつ白書](#)」では、保険金支払実績に基づいたどうぶつの疾患統計や、家庭どうぶつの健康管理の参考として頂けるデータ等、様々な角度から分析を行っています。国内最大規模のこの疫学データは、獣医学会や論文をはじめ、雑誌や新聞記事などで活用されており、幅広い視点からどうぶつ医療・ペット産業の発展へと貢献しています。

02 AIの活用で次世代予防法の確立を



保険金請求データだけでなく、[どうぶつkokusei調査](#)や、[アニコムレセプター](#)（動物病院向けカルテ管理システム）、遺伝子や共生細菌の検査結果など多種多様かつ膨大なデータを相互に生かし、次世代の予防法開発に取り組んでいます。これらを人為的に解析することはもちろん、[ディープラーニング](#)（深層学習型人工知能）を活用し、疾病発生前の病気予報など、私たちにしかできない次世代予防法の確立に繋がっていきます。

4. 予防に向けた各種取組み

※WEB環境の場合は、画像をクリックしてHPIにジャンプできます。

01 anicom you

ペットの予防情報や豆知識、珍しい動物や絶滅危惧種などの情報を配信するWEBマガジン。



04 ミニまるPLANET

犬猫以外のエキゾチックアニマルに関する情報を配信するWEBマガジン。



02 ハローべいびい

全国のペットショップで販売されている生体の情報を配信するマッチング支援サイト。



05 どうぶつライフサポート

提携のドッグカフェやホテルなどで保険契約者が優待を受けられるサービス。



03 STOP熱中症

犬の熱中症を減らすための予防啓発プロジェクト。他にSTOP誤飲プロジェクトなども展開。



06 アニコムナビ

品種や年齢、性別ごとに、どのような病気になるやすいかを視覚的に表示し、予防の啓発に。



■ 保険用語について

- ・ **保険料** 被保険者の被る危険を保険会社が負担する対価として、保険契約者が保険会社に支払う金銭。
- ・ **保険金** 保険事故により損害が生じた場合に、保険会社が被保険者に支払う金銭。
- ・ **事業費** 保険会社の事業上の経費で、営業費、一般管理費、諸手数料及び集金費を総称したもの。
- ・ **損害率** 保険金の保険料に対する比率。当資料では、発生保険金の既経過保険料に対する比率で表示し、損害調査費を含む数字で記載。
- ・ **事業費率** 事業費の保険料に対する比率。当資料では、損保事業に関わる事業費の既経過保険料に対する比率で表示。
- ・ **コンバインド・レシオ** 「損害率」と「事業費率」を合算した数値。100%以下であれば、損害保険会社の収入が支出を上回っていることを示す。
- ・ **ソルベンシーマージン比率** 通常の予測を超えて発生しうる危険に対する、資本金・準備金等の支払余力の割合を示す。
- ・ **異常危険準備金** 巨大災害の発生に備えて、損害保険会社が保険料の一定割合を積み立てる準備金。
- ・ **継続率** 前年契約件数に対する継続契約件数の比率。
- ・ **アンダーライティング** 保険の引受けにあたり、危険の選択、引受条件、料率等を決定すること。

■ ペット保険に関する用語について

- ・ **NBチャネル** 主にペットショップで販売される0歳児を対象とした当社最大のチャネル。NBはNewBornの略。
- ・ **一般チャネル** すでに飼育されているペットを対象にした、WEBや金融機関窓口等での販売チャネル。
- ・ **対応病院制度** アニコム損保と予め契約した、窓口精算システムを導入している動物病院のこと。
- ・ **窓口精算システム** 動物病院での診療費の精算時に、自己負担分のみを支払うことにより、保険金の請求手続きが終了する仕組み。
- ・ **付保率** 主にペットショップにおいて、販売されたどうぶつのうち、ペット保険に加入したどうぶつの比率のこと。
- ・ **普及率** 日本国内で飼育されている犬猫のうち、ペット保険に加入している犬猫の比率のこと。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部（IR事務局）

東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

URL : <http://www.anicom.co.jp/>

【本資料に関する注意事項】

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。

従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。